



制御できなかった『爆薬』 — 瑞海公司を調査

新华青海 www.qh.xinhuanet.com 2015-08-19

新華社ネット北京 8月19日電 (『新華の視点』記者 牛紀偉、鄧中豪、付光宇、李鯤、翟永冠) 8月12日、天津東疆保税港区の瑞海國際物流有限公司で爆発火災が発生、百人を超える遭難者がでる事態となった。瑞海公司とはどのような企業なのか？ その幹部の所謂『神秘的背後関係』の有無は？

近日、記者は、瑞海公司の大株主である李亮や董事長の于学偉、副董事長の董社軒、法人代表兼総經理の只峰、そして副総經理の曹海軍という瑞海公司の核心人物5名に独占取材・接触をしてきた：

取材が進むにつれ、瑞海公司とその管理層の実態が明らかになり、瑞海公司が普通の倉庫から危険物倉庫に変遷する過程が浮上し、爆発の背後関係についても多くの疑問点が出てきた。

闇に包まれた株主

『瑞海公司のボスは誰なのか？』天津浜海の大爆発から一週間、人々は皆口を揃えて質問する。工商登記情報上では、瑞海公司は2012年11月28日に設立登録され、登録資本は5000万元、株主は、李亮と舒錚、法人代表人は李亮とされている。うち、李亮が55%、舒錚が45%の株を保有している。2015年1月29日、瑞海公司は、1億元に増資し、法人代表人が只峰と変わった。李亮、舒錚、只峰、彼ら3人のうち、一体誰が瑞海の真のボスなのか？

15日午後、記者は、泰達医院に入院中の瑞海公司総經理只峰とあった。只峰は12日に爆発現場で負傷し、その後警察の管理下に置かれることになった。記者が彼を見たときはこん睡状態にあった。その妻は、記者に対し『只峰は同社の日常管理を担当しており、株は持っていない、月収は1万元超。会社の実際の責任者は一人が于学偉で、もう一人は董という姓だ』と語った。

17日午後、記者は天津市第一看守所で警察により拘束されていた瑞海公司の大株主李亮と面会した。彼は爆発発生後の13日午前5時ごろ、天津市内で警察に拘束された。記者を見つけて、34歳の李亮はおずおずとした態度を見せた。情報では、彼の家庭は極めて一般的だが、父親が退職前に天津市東麗区の大幹部の配下であり、彼自身もまた瑞海公司の真の大株主ではなかった。

『真の大株主は、于学偉といい、私の義姉の夫だ。55%の株は、私が于学偉のために代理取得したもの』、『自分では所有したことも、署名したことも、一銭も手にしたことはない』と李亮は言う。

取材中、李亮は、自分の株が代理のものであることに限らず、同社の45%の株主の舒錚もまた代理のもの、真の株主は董社軒で、それは天津港公安局元局長の息子だと漏らした。

17日午後、記者は、看守所で警察により拘束されていた董社軒と面会した。今年34歳の董社軒は、自分が瑞海公司の第二の株主であり、高校で同級だった舒錚を通じて45%を保有したと語った。

董社軒は、その父は確かに天津港公安局の元局長だったが、2013年初めに肝臓がんが見つかり、2014年8月に他界していた。『人を介して株を取得した理由は、父親が公安局に勤務しており、他の人間に知られたら影響がある、また、その当時父親が組織の調査を受けていたということもあるから』と董社軒は言う。

董社軒は、記者に対し『私は、1,000万元以上を投資していたが、具体的な事務には全く関与していなかった。瑞海公司はこれまで一度も配当しておらず、毎月1万5千円の固定給を得ていた。爆発前、私は既に手を引こうと考えていた。今年の春節期間中に開かれた公司集会で、酒を飲んだ私は、于学偉に話を一度したが、不快な結果になった。急ぐことはない。今年の年末には配当を出すからとあいつは言ったが、結果として、配当ではなく爆発事故が起こってしまった。』と語った。

取材中、曹海軍もまた『会社の真のボスは于学偉で、董社軒は集会のためにたまたま来ていたが、日頃から彼を見かけることは殆どなかった』と語った。

支配者は誰か？

驚天動地の爆発だったが、瑞海の『ベールに閉ざされた支配者』が幕の向こうから表舞台に現れてきた。記者は、天津市第一看守所で、瑞海会社の背後にいる『神秘の支配者』、于学偉（1974年生まれ）と面会した。公安民警によると、『爆発発生時、于学偉と家族は河北省を旅行していたが、電話を受けてその夜戻ってきたが、現場到着前に即時拘束された。爆発結果についてはまだ詳しくは判らない』とのことだ。

于学偉は、瑞海公司の実質的支配者で、自分のために妻の義弟である李亮から同社株の55%を保有したという。于学偉は、1994年に中化集団天津分公司に入り、2012年9月に離職していたが、離職前は、中化集団天津分公司で副総経理を務めており、危険物業界には非常に通じていた。

于学偉は、『董社軒とは酒席で知り合った。彼の父親は公安局長で、港では影響力があった。』と語る。2012年末、中化を離職した于学偉が董社軒を見出し、双方のリソースを利用したジョイントベンチャーの立ち上げを決めた。

董社軒は、2006年に軍の学校を卒業後、タイヤ販売や工事の元請、化粧品やワインの輸入販売をしていた。『2012年末、于学偉が私と知り合い、中化から部隊を率いて独立したいと言った。彼は、中化の顧客の8~9割を引っ張ってこられると言ったのだ。』

于学偉の話では、2012年11月28日に、瑞海公司是成立登記され、彼と董社軒が夫々親戚の李亮と同窓の舒錚に株を持たせた。公司成立後、彼は瑞海公司の主要管理層に中化集団天津分公司から引っ張ってきた大量の人員をあてた：総経理の只峰やオペレーション主管の副総経理曹海軍、業務部主管の副総経理劉振国は中化集団の天津分公司から来ている。

幾重もの『審査パス』

瑞海公司が、公司成立から危険物の経営資格を獲得するには1年半かかった。

情報では、瑞海公司の設立当初、普通の物流倉庫しかなかったが、2014年4月に、瑞海公司是危険化学品の経営資格を取得。瑞海公司是、これ以前に相次いで消防署の検査や規格審査、安全評価、環境評価など一連の審査手続きを通過させている。

手順上は、瑞海公司是あらゆる必要な手順を踏んでおり、必要な認証は全て保持している。

記者は取材により、瑞海公司在2013年に危険化学品倉庫の建設を申請した際、消防部門が出した意見書では「この工程の消防設計に合格」とされており、瑞海の消防鑑定取得が証明されていることが判明。

消防鑑定を思い出しながら董社軒は『私は主に公安や消防方面にコネが、于学偉は安監（安全生産管理監督局）や港湾管理局、税関、海事、環境保護の方面にコネがあった。公司成立時、私は天津港公安消防支隊の責任者に危険品の保管をしたいと伝えた。その当時、私は天津市化工設計院に設計させた改造プランや資料を持って行ったところ、あっという間に消防鑑定が下りた。』と語る。

天津市滨海新区計画及び国土資源管理局副局長の朱立明は、瑞海公司是危険品倉庫の2施設の建設が規格審査に合格していたため建設工程の計画に許可を出したという。『安全距離については、我々が審査許可する前に消防部門が出していた建設工程消防設計審査意見書を参考にした』と朱立明は言う。

記者が入手した2013年12月10日付の天津市環境工程評価センターの環境報告書は、瑞海公司在、物流ヤードからコンテナヤードへの改造を企図し、プロジェクト完了後には年間2万トン前後の危険品をとり扱うようになったことが見て取れる。この報告書では、『当該プロジェクトの建設内容は国家産業政策に合致しており、土地の使用が地区の全体的な発展計画に合致し・・・このプロジェクトの建設は環境の実行可能性も具備している』とされており、環境評価も同様にパスしていた。

『危険化学品安全管理条例』により、国家は危険化学品に関しては許可制を採っている。新築や改築、拡張貯蔵、危険化学品の港湾建設プロジェクトには、港湾行政管理部門が国务院交通運輸の主管部門の規定により安全条件審査が必要となる。天津市の安全生産監督管理局の副局長高懷友は、瑞海公司在Aクラスの安全評価機構を取得しており——天津市中浜海盛安全評価監測有限公司の安全条件審査報告後に、関連する主管部門が安全評価結果に基づき現場審査をし、関連規定に合致しているという結論を出した。

幾つもの疑問点

瑞海公司による事故は、偶然ではないのかもしれない。何重もの審査合格の背後には、夫々の許可取得段階で幾つもの疑問点が残っている。

——環境評価の民意調査結果は、『反対意見が一つもない』というミステリアスなものだった。

記者が入手した瑞海公司の『環境評価報告書』では、環境評価期間中に、周辺企業及び住民に **130** の調査票を送付し、有効回答 **128** を回収、『このプロジェクトの建設に関し基本的に支持或は賛成をしており、反対意見はゼロだった』となっていた。が、記者の取材では、付近の住民にはこの調査票を見たというものがおらず、ここが危険品倉庫であることを全く知らなかったということが判明。これについて、于学偉は「自分は環境アセスメントには関与していない」と語った。

——安全評価会社を換えることで安全評価報告書を取得

国家安全生産監督管理部門が **2001** 年に出した『危険化学品経営企業の開業条件と技術要求』の規定では、**550** 平米以上の大型中型危険化学品倉庫の土地使用には周囲の公共建築物や交通幹線（道路や鉄道路、水路）、鉱工業企業などから最低 **1000** メートルの距離を保たねばならないとある。

記者が実際に歩いて測定したところ、万科清水港の港湾小区と当該倉庫の実際距離は最も近いもので **560** メートル、また、当該倉庫と軽軌（宮本注：ライトレール、軽軌道）の東海路駅からの距離が約 **630** メートルしかなかったことが分かった。

董社軒は、『安全評価の際、最初の安全評価会社は住民の住んでいるビルから近すぎて規定に合致しないので、安全評価を下せない。その後、于学偉から、気にするな、別の安全評価会社に代えたらよい、そうすれば結果が出てくるさ、と言われた』と語った。だが、于学偉は、安全評価の件について、自分は具体的には関与していないので、詳細は判らないとしている。

記者の取材により、疑惑だらけの安全評価報告に関し関連部門が未だに公開していないことが判明。

——資格：爆発前半年以上も危険化学品オペレーション資格なしに通常の運営

工商登記情報では、瑞海公司が **2014** 年 **4** 月に有効期限を **2014** 年 **10** 月 **16** 日とする最初の危険化学品の経営認可を天津市交通部門から受けた。同社が正式に港湾営業許可証を取得したのは **2015** 年 **6** 月なので、換言すると **2014** 年 **10** 月から **2015** 年 **6** 月までの **8** か月の間、同社に危険化学品経営の資格がなかったということになる。

于学偉は、同社はそれ以前に **2014** 年 **10** 月までの期間の危険化学品経営資格を入手していたと語る。危険化学品の正式資格は **2015** 年 **6** 月に取得したもので、それまでの半年以上の期間は交通委員会の資格は無かったものの、同期間中の危険化学品業務推進には何らの影響も出なかったという。

于学偉は、「試験運営資格の期限が切れたときに、同社は期間延長の手続きはしていなかった。正式認証がすぐに降りると思っていたし、他の多くの企業もまた延長手続きをしておらず、半年以上手続きしていないところもあるが、誰も何も言われていないので、あまり重視していなかった」と語る。

http://www.qh.xinhuanet.com/2015-08/19/c_1116306054.htm

..... 以下は中国語原文

失控的“炸药包”——瑞海公司调查

清华青海

www.qh.xinhuanet.com

2015-08-19

新华网北京 8 月 19 日电（“新华视点”记者牛纪伟、邓中豪、付光宇、李鲲鹏、翟永冠）8 月 12 日，天津东疆保税港区瑞海国际物流有限公司发生火灾爆炸，造成上百人遇难的严重后果。瑞海公司究竟是一家什么样的企业？其高管层是否有所谓“神秘背景”？

近日，记者独家采访、接触瑞海公司五名核心人物：瑞海公司大股东李亮、董事长于学伟、副董事长董社轩、法人代表兼总经理只峰以及副总经理曹海军。

通过深入采访，瑞海公司及其管理层的真实面目在抽丝剥茧中逐渐清晰，瑞海公司由一家普通仓库变身危化品仓库的过程日渐浮出水面，而爆炸背后的诸多疑点仍有待解答。

神秘的股东

“瑞海公司的老板是谁？”天津滨海大爆炸之后的一周里，人们都在问。

工商登记信息显示，瑞海公司于2012年1月28日注册成立，注册资本5000万元人民币，股东为李亮、舒铮，法定代表人为李亮。其中李亮持股55%，舒铮持股45%。2015年1月29日，瑞海公司增加注册资本至1亿元人民币，法定代表人变更为只峰。

李亮、舒铮、只峰，他们三人中谁是瑞海公司的真正老板？

15日下午，记者在泰达医院住院部见到瑞海公司总经理只峰。只峰12日在爆炸现场受伤，随后被警方控制，记者见到他时正呈昏迷状态。其妻告诉记者，“只峰负责公司日常管理，没有股权，一个月领一万多的工资。公司的实际负责人一个叫于学伟，一个姓董。”

17日下午，记者在天津市第一看守所见到了被警方控制的瑞海公司大股东李亮。他在爆炸发生后的13日上午五点左右，在天津市市区内被警方控制。见到记者，34岁的李亮显得非常局促。据其介绍，他的家庭很普通，其父亲退休前是天津市东丽区老干部局的科员，他自己也不是瑞海公司真正的大股东。

“真正的大股东叫于学伟，是我表姐的老公。55%的股份是我替于学伟代持的”。李亮表示，自己“没有开过一次会，没有签过一个字，没有拿过一分钱”。

采访中，李亮透露，不仅自己的股份是代持的，公司占股45%的股东舒铮也是替人代持股份，真正的股东叫董社轩，是天津港公安局原局长之子。

17日下午，记者在看守所见到已被警方控制的董社轩。今年34岁的董社轩告诉记者，他是瑞海公司的二股东，通过高中同学舒铮持有公司45%的股份。

董社轩说，其父的确是天津港公安局原局长，父亲在2013年初发现患上肝癌，2014年8月已经去世。

“之所以找人代持，是因为我爸在公安局任职，让别人知道了影响不好，而且当时我父亲正在接受组织调查。”董社轩说。

董社轩告诉记者，“我先后投了1000多万，但并不负责任何具体事务。瑞海公司成立至今也没分过红，我每个月只拿1.5万元的固定工资。爆炸前我本来就已经打算退股了，今年春节期间公司聚会，喝完酒，我跟于学伟谈过一次，闹得很不愉快。他说，别着急，今年年底就能分红，结果还没分红就发生了爆炸。”

采访中，曹海军也说：“公司真正的老板叫于学伟，董社轩偶尔来开开会，平时很少见他。”

谁是控制人

一场惊天动地的爆炸，将瑞海公司的“神秘控制人”从幕后推向了前台。

记者在天津市第一看守所见到众人口中瑞海公司背后的“神秘控制人”、1974年出生的于学伟。据公安民警介绍，“爆炸事发时，于学伟和家人在河北旅游，接到电话后当晚赶回，未到现场即被控制，对爆炸的严重后果还不清楚。”

于学伟说，他是瑞海公司的实际控制人，拥有公司55%股份，由妻子的表弟李亮为自己代持。他1994年进入国企中化集团天津分公司工作，2012年9月离职，离职前任中化集团天津分公司副总经理，对危化品行业非常熟悉。

于学伟说：“我在酒桌上认识的董社轩。他爸是公安局长，他在港口混得开。”2012年末，从中化离职的于学伟找到董社轩，决定利用双方的资源共同创业。

董社轩说，他2006年从一所军校毕业，此后卖过轮胎、承接过工程、进口过化妆品、卖过红酒。“2012年底，于学伟找到我，说想从中化拉一支队伍单干。他说中化的客户都在他手里，他能拉到中化八九成的客户。”董社轩说。

据于学伟介绍，2012年1月28日，瑞海公司注册成立，他和董社轩分别找亲戚李亮和同学舒铮代持股份。公司成立后，他从中化集团天津分公司挖来大量人员，瑞海公司的主要管理层：总经理只峰、主管操作部的副总经理曹海军、主管业务部的副总经理刘振国均曾就职于中化集团天津分公司。

层层“通关”

从成立一家公司到获得危化品经营资质，瑞海公司用了一年半的时间。

据了解，瑞海公司成立之初只有普通物流仓库，2014年4月，瑞海公司拿到危化品经营资质。在此之前，瑞海公司陆续通过了消防鉴定、规划审批、安全评价、环境评估等一系列程序，从而获得了从事危化品仓储的资格。

从程序上看，瑞海公司走过了所有应走的流程，拿到了所有应有的认证。

记者采访发现，在瑞海公司2013年申请建设危化品仓库时，消防部门出具的意见书显示“该工程的消防设计审核合格”，证明瑞海拿到了消防的鉴定。

回忆起办消防鉴定的过程，董社轩说：“我的关系主要在公安、消防方面，于学伟的关系主要在安监、港口管理局、海关、海事、环保方面。公司成立时，我去找的天津港公安消防支队负责人，说想做危化品仓储。当时我把天津市化工设计院给设计的改造方案这些材料都拿了过去，很快消防鉴定就办下来了。”

天津市滨海新区规划和国土资源管理局副局长朱立明说，瑞海公司建设两个危化品仓库符合规划审批依据，拿到了建设工程规划许可证。“关于安全距离，我们审批前参考了消防部门出具的建设工程消防设计审核意见书。”朱立明说。

记者获得的一份2013年12月10日天津市环境工程评估中心的环评报告显示，瑞海公司拟把物流堆场改造成为一个集装箱堆场，项目建成后危险品货物年周转量2万吨左右。该报告认为，“该项目建设内容符合国家产业政策，选址符合地区总体规划……本项目建设具备环境可行性。”环评同样获得通过。

按照《危险化学品安全管理条例》，国家对危险化学品经营实行许可制度。新建、改建、扩建储存、装卸危险化学品的港口建设项目，由港口行政管理部门按照国务院交通运输主管部门的规定进行安全条件审查。

天津市安全生产监督管理局副局长高怀友说，瑞海公司取得了全国甲级安全评价机构——天津市中滨海盛安全评价监测有限公司的安全条件审查报告后，相关主管部门根据安评结果对现场及结论进行审查，认为符合相关规定。

疑点重重

瑞海公司的惊人事故，或许并非偶然。在层层通关的背后，却也步步存疑。

——环评民意调查，神奇的“没有反对意见”

记者获得的瑞海公司“环评报告”显示，环评期间共向周边企业及居民发放130份调查表，回收有效调查表128份，“基本支持和赞同该项目的建设，没有反对意见。”而记者采访中，没有附近居民曾看到这张调查问卷，此前也完全不知道这里是一个危化品仓库。对此，于学伟表示，环评的事他并未参与。

——换了家安评公司才拿到安评报告

按照国家安监部门2001年出台的《危险化学品经营企业开业条件和技术要求》，550平方米以上的大中型危险化学品仓库选址应与周围公共建筑物、交通干线（公路、铁路、水路）、工矿企业等距离至少保持100米。

记者实地脚步测量发现，万科清水港湾小区与该仓库直线最近距离约为560米，而该仓库与轻轨东海路站距离也仅约630米。

董社轩表示，“当时做安评时，第一家安评公司说距离居民楼太近，不符合规定，安评做不下来。后来于学伟说别管了，他来弄，后来又换了家安评公司，结果就弄下来了。”不过于学伟却表示，安评的事并不是他具体操办，具体不清楚。

记者采访发现，外界质疑颇多的安评报告，相关部门至今仍未向社会公开。

——资质：爆炸前有半年多没有危化品运营资质但仍正常运营

工商登记信息显示，2014年4月，瑞海公司才首次获得天津市交通部门批复的危化品经营资质，有效期至2014年10月16日。而该公司正式获得港口经营许可证是在2015年6月，也就是说，从2014年10月至2015年6月的8个月中，该公司没有经营危化品的资质。

于学伟说，公司此前拿到了经营危化品的试运营资质，到2014年10月份到期。公司经营危化品的正式资质是在2015年6月拿到的，此前有大概半年多的时间没有拿到交委的资质，期间公司危化品业务正常进行没受到影响。

于学伟说：“当时试运营资质到期后，公司没有办延期。一方面觉得正式资质很快就会批下来，另一方面觉得很多其他公司都没办延期，有的拖的时间比半年更长也没人管，就没当回事儿。”

20150819A 制御できなかった『爆薬』 — 瑞海公司を調査(新華青海)